

## なすべきことをなすお手本

(年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2008/8月

—不思議な光景—


- ・自転に乗った女性が、左手に折りたたみ日傘を持って、軽がると片手運転をしている。若い女性に見えたが、高齢の女性だった。8/2
- ・ネコが寺の廊下を囲っている欄干の直径 10cmもない細い丸太に頭を右にして止まって、周りを見回している。床より確かに遠目が効くに違いない。とメモしてネコから目を放している間に、どう変えたのか、頭が左になっている。するとスルスルと欄干を軽業師のように歩いて、欄干から廊下の床に飛び降り、寺の柱で数回爪を搔いて歩き去った。ショーはこれでお終いということか。8/18
- ・自転に乗った七十歳近い男性が、女性がつけるサンバイザーをつけていた。8/22
- ・六、七歳の男の子が、剣道の白い胴着と黒っぽい袴を着て、面の入った袋と細長い袋に入った竹刀を背負い…とここまでは凜々しい。たたんだ若草色のビニール傘を参道の石畳に引きずって、途中の道場に向かって歩いている。

2008/8/4

気温35度、湿度80%以上の猛暑の午後4時過ぎ、老女が一人、1500坪以上の畑の中で40cm以上も伸びた雑草を黙々と刈り取っている。雑草は100坪以上の範囲に広がっている。手前には老女が丹精したナスやとうもろこし、インゲン、きゅうりが実っている。夕暮れに近づいてきたが、日中の大地の火照りは残っていて、ウォーキングで汗がしたたり落ちるほど。それでも雨がパラパラとちらつき始め、風が吹き、ほんの人肌程度に涼気が横切った。しゃごんだ姿勢は草のたけから頭が少しでるほど老婆の体は小さい。この酷暑で家で静かにすごしているお年寄りが、熱中症にかかって、救急車で病院に運ばれている。この老女（立ち話から、尋ねても言わないが、大東亜戦争の頃には稼いできたそうだから85歳は過ぎている筈）は、温暖化やオリンピックやらの世間のニュースにも関係なく、ひたすら現実の雑草を次の作物作りのために取り続けている。野良猫が遊んでもらいたいのか老婆の周りをうろつくが、猫にも目もくれず、手を休めることはない。なすべきことをなすのお手本を見せていただいた。

2008/8/11

森田正馬は、感情はあるがままの例えに、突然足元から鳩が飛び立ったら驚くのはあたり前と書いている。CL法則の理解は知識を知り、実践して経験を通して理解を深め、使い続けて身につく、知恵となって人生に生かすことができる。以前、ウォーキングの帰りに家に近づいたとき、鍵をポケットから出そうとした瞬間、正に野鳩が足元から飛び立って、びっくりした。すぐに森田の前記のことばを思い出し、本当に驚くことに納得して苦笑いしたことがある。注意が感情や頭に向いたとき、事実はいつなんどきでも意識が外に向くよう知らせてくれるプレゼントでもある。二、三日前は家を出たとき、石畳の溝にいたトカゲが足元から飛び走って驚いた。そして今日は、樹木に覆われた薄暗い院内の坂道で、青筋揚羽蝶が足元から飛び立った。蝶の飛び方はひらひらと心もとないせいか、どきんと驚くより、その暗い中で突然光る青い筋の美しさへの感嘆の驚きだった。感情は人生を面白くしてくれる演出家のような。

 目次へ戻る